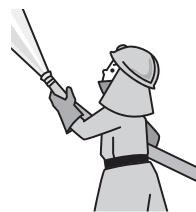


防火対策について

- ① 阪神大震災で通電火災が多発した教訓をふまえ、地震による停電時、家を離れる時はブレーカーを遮断すべきであることをもっと区民に知らせる必要がある。そのため、避難訓練の際にはブレーカー遮断についてくりかえし話をし、避難所運営指針にブレーカーの遮断についてチェック項目を設ける、感震ブレーカーの設置に補助金を出すなどが必要ではないか。



区：具体的に検討する。

- ② 葛飾区で発生したアパート火災において、消防署の到着より早く、近隣の住民がスタンドパイプを使って消火に成功したという。荒川区でも普及を急ぐべきと考えるがどうか。

区：計画的にスタンドパイプの配備と訓練を行う。

スタンドパイプとは：
消火栓と消防用ホースの接続に用いる金属の管

荒川ころばん体操の今後の取り組みについて



- ① 認知症の前段階＝軽度認知障害には筋力トレーニングが効果的といわれる。区民が筋トレの効果を理解することが必要ではないか。また、より筋トレに目的を絞ったころばん体操を開発してはどうか。

区：ころばん体操が脳の活性化にも効果があり、認知症予防につながることを今後十分に広報する。首都大学山田教授の指導のもと、体操の拡充にむけた開発を進める。

- ② ロコモティブシンドローム＝運動器症候群対策を

ロコモとは年齢とともに運動機能が低下し、介護が必要となる可能性が高い状態のこと。運動器の衰えを自分でチェックする簡単なテストと予防トレーニング法もできている。ロコモ予防を区としても普及させ、ころばん体操を始めるきっかけづくりにしたらどうか。

区：ロコモ予防の重要性を普及啓発することで、区民の健康寿命の延伸と介護予防に努める。

SNSに関する講座とルールづくりについて

昨今、インターネットによる犯罪やトラブルが大きな社会問題となっている。児童生徒に対し、ソーシャルネットワーキングサービス、いわゆるSNSの正しい使い方を指導していくことが必要である。保護者への啓発と共に子ども自身が自主的なルールをつくる必要があるのではないか。

区：学級での話し合い活動等も活用して、効果的に指導していく。



ドッグランについて



愛犬家が増えている。犬が自由に走り回る場所が必要であろう。柵のある場所を時間や運営方針などルールを決めて愛犬家の団体に自主運営してもらうなどの方法で、ドッグランが実現できないだろうか。

区：検討を始める

無料弁護士相談をご利用ください

毎月第3土曜日 11時からせの事務所にて（日暮里駅から徒歩5分）

予約制、日時の変更もできます。ご予約は、せの喜代まで TEL/FAX 3891-0203